

**総合計画市民ワークショップ
「みんなで考えよう！吹田の未来」**

報告書

平成 29 年6月

吹田市

《 目 次 》

I. 概要	1
1. 目的	1
2. 名称	1
3. 対象	1
4. 日時・場所・参加者数	1
5. 構成及び内容	1
II. 参加者によるワークの内容	3
1. 概要	3
2. ワークの手順等	3
3. ワークのポイント	4
III. 開催結果等	5
1. 参加者数及び参加者の性別・年齢層	5
2. 成果について	5

I. 概要

1. 目的

吹田市第4次総合計画の策定に当たり、市民の方々から意見聴取を行い、同計画策定のための検討の参考とすることを目的として、市民を対象としたワークショップを実施した。

2. 名称

総合計画市民ワークショップ「みんなで考えよう！吹田の未来」

3. 対象

吹田市内に在住・在学・在勤の方

4. 日時・場所・参加者数

図表1のとおり。

図表1 実施日時及び場所

	実施日時	場所	参加者数
①	5月14日（日）午前10時～正午	千里市民センター 大ホール	53人
②	5月20日（土）午前10時～正午	吹田市立勤労者会館 大研修室	35人

5. 構成及び内容

(1) 全体構成

吹田の未来を見据えて10年後に実現したいこと、そのために今後市民や行政がどのような取組をしていくべきかをテーマとし、ゲスト講演を参考にしながら、参加者による意見交換のワークを行った。

なお、本ワークショップの企画・運営に当たっては、学生のアイデア等を活用する観点から、関西大学政治学研究部に協力いただいた。

(2) ゲスト講演

できる限り多様・多層な市民の方に、本ワークショップに関心を持っていただくため、また、まちづくりにおける重要な考え方や本市の特徴などの情報を、参加者で共有いただいたうえで意見交換のワークを行うため、ワークの前にゲストによる講演を実施した。

各回のゲスト、講演内容については、図表2のとおり。

図表 2 各回のゲスト、講演内容

	実施日	ゲスト	講演内容
①	5/14	長谷川 美津代 氏 (NPO 法人 市民ネットすいた 理事長)	「できることから始めよう、協働のまちづくり」 「人・まち・ココロをつなぐ中間支援組織」として、様々な団体を支援してきた経験から、今後の行政や市民等の連携、協働によるまちづくり等について、講演いただいた。
②	5/20	尾浴 芳久 氏 (株式会社シティライフ NEW 取締役編集長)	「おしえて編集長！吹田のいいところ」 北摂の様々な都市を取材してきた経験や、編集に携わってきた紙面の内容から、北摂の都市や、吹田の魅力、歴史等について、インタビュー形式でお話を伺った。

(3) 参加者によるワーク「みんなで考えよう！10年後の市報すいたの見出し」

講演の内容を参考にしながら、参加者でグループに分かれて意見交換のワークを行った。
ワークの詳細については、P.3「Ⅱ. 参加者によるワークの内容」のとおり。

(4) 個人の気づき

各回の終わりに 5 分程度、講演やワークにおける個人の気づきを振り返り、その内容を付箋に書く時間を設けた。

II. 参加者によるワークの内容

1. 概要

「みんなで考えよう！10年後の市報すいたの見出し」と題し、5～6人のグループに分かれて参加者どうしで気になる話題を選び、意見交換を行った。意見交換の内容を踏まえ、10年後に実現したい吹田市の姿として、10年後の「市報すいた」の記事の見出しを考えることにより、議論のまとめを行った。

2. ワークの手順等

図表3のとおり。

図表3 ワークの手順等

	手順	内容	意見等の参照箇所
1	自己紹介 ／話題提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 各参加者は、19の政策テーマが書かれた「話題カード」(図表4)の中から、興味のあるものを1つずつ選択。 ● 順番に、自己紹介をしながら、選んだ「話題カード」をもとに意見発表(その話題に興味を持った理由、最近気になっていること等)を行い、グループ内で話題を提供し合った。 	—
2	話題設定	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ内で意見交換を行いながら、各参加者から提供された複数の話題の中から、グループで議論を深めたい話題(政策テーマ)を2つ選択。 	—
3	意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ● 選択した2つの話題について、今後10年間で取り組むべきことは何か、意見交換。 ● 意見交換に当たっては、「市民の取組」「協働の取組」「行政の取組」の視点から、課題やアイデア等の意見を出し合った。 ● グループの参加者全員で様々な意見を共有・整理しながら議論するため、出し合った意見は、随時、付箋に書き出し、大きな模造紙の「みんなで考えようシート」(図表5)に分類して貼り付けた。 	P.7 図表8
4	見出しづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 議論のまとめとして、出された意見やアイデア等をもとに、10年後に実現したい吹田市の姿を思い描き、10年後の「市報すいた」の記事の見出しを考えた。 	
5	グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ● 各グループで話し合った内容を全体で共有するため、有志のグループにより、議論した内容を発表。 ● 各グループで考えた「市報すいた」の見出しを発表。 	—
6	個人の気づき	<ul style="list-style-type: none"> ● 各参加者で、講演やワークを通して気づいたこと、考えたこと等を振り返り、付箋に書き出した。 ● 付箋は、ホワイトボードへ貼り付け、参加者どうしで共有できるようにした。 	P.11 図表9

3. ワークのポイント

(1) 「話題カード」の内容

ワークの話題提供及び話題設定に活用する「話題カード」については、現在、本市で検討している第4次総合計画基本計画（素案）の施策体系（平成29年5月時点）を参考に、「市民自治」「防災」「高齢者福祉」「子育て」「環境保全」など、19の政策テーマをそれぞれ記載した。

また、「話題カード」には、議論の参考とし、「連想されるキーワード」や、過去の「市報すいた」から抜粋した関連記事を記載した。

「話題カード」のイメージは図表4のとおり。

(2) 10年後の「市報すいた」の記事の見出しづくりの狙い

現在、本市で検討している第4次総合計画の計画期間は、平成30年度から平成39年度の10年間であり、本ワークショップでは10年後に実現したい吹田市の姿を議論していただくこととした。また、「市報すいた」は、市民に身近な情報が多数掲載されており、市民にとって行政との重要な接点の1つとなっている。

市報を題材にすることにより、10年後に実現したい吹田市の姿や、それに向けたまちづくりの取組について、自身にとって身近なことと捉えながら議論いただくことを狙いとした。

図表4「話題カード」のイメージ

□ 記載内容

- 話題（政策テーマ）
- 連想されるキーワード
- 吹田市のいま
「市報すいた」から関連記事の抜粋

□ A4 サイズ、全部で19種類

図表5「みんなで考えようシート」のイメージ

テーマ	今後10年間で取り組むべきこと		
	市民の取組	協働の取組	行政の取組
健康・医療			
学校教育			

□ 意見を書き出した付箋

□ 大きな模造紙
□ グループで1枚のシートをつくる。

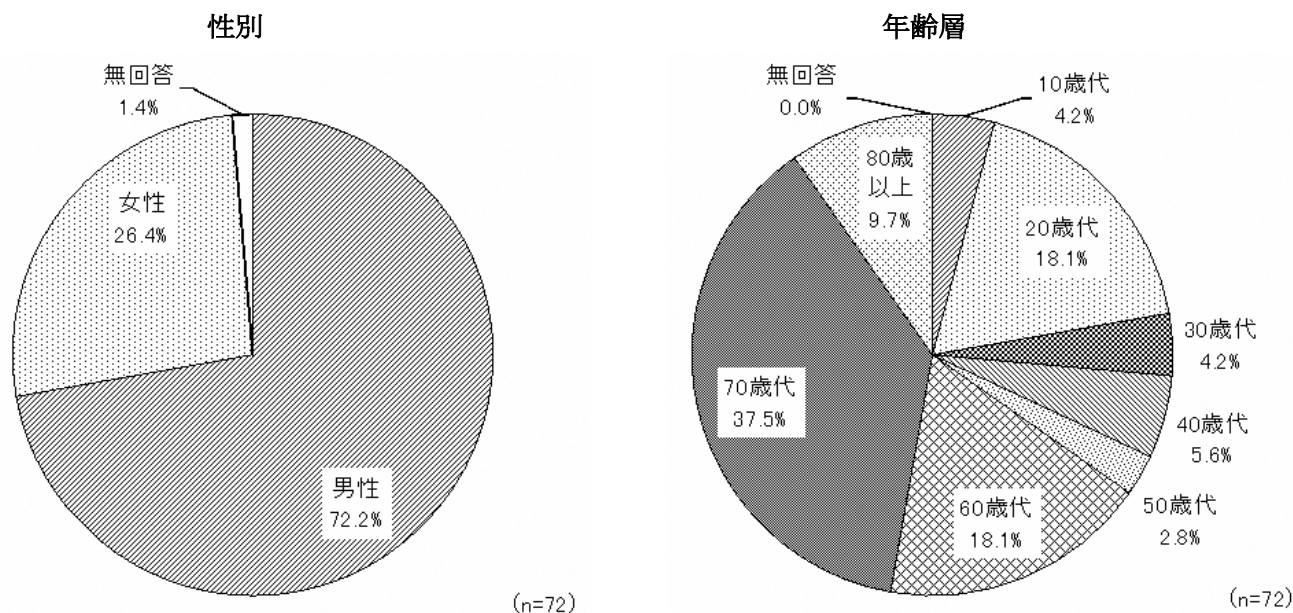
III. 開催結果等

1. 参加者数及び参加者の性別・年齢層

各回の参加者数はP.1の図表1のとおり。(5月14日 53人、5月20日 35人)

また、参加者の性別・年齢層は図表6のとおり。

図表6 参加者の性別と年齢層(nは回答数)



2. 成果について

多様・多層な参加者に、意見やアイデアを付箋に書き出しながら意見交換をしていただき、今後どのような取組をするべきか等、多数の意見が出された。また、それぞれの取組について、市民と行政どちらが取り組むべきか、協働で取り組むべきことは何かなどを考えていただくことができた。特に多くの意見が出された話題は、「市民自治」「地域福祉」「健康・医療」「子育て」であった。

さらに、個人の気づきとして、講演やワークを通して気づいたこと、考えたこと等を振り返り、付箋に書き出していただき、この作業からも多数の意見等を得ることができた。

「みんなで考えようシート」から得られた主な意見や、10年後の「市報すいた」の見出しについては、図表8のとおり。個人の気づきから得られた意見については、図表9のとおり。

図表7 ワークの様子



図表8「みんなで作えようシート」から得られた主な意見及び10年後の「市報すいた」の見出し

※「関連する施策の大綱」については、平成29年4月5日時点の吹田市第4次総合計画基本構想(素案)に基づく。

関連する施策の大綱	今後10年間に取り組むべきこと				10年後の市報すいたの見出し	
	No.	課題	市民の取組	協働の取組		行政の取組
大綱1〔人権・市民自治〕	1	平和・人権	-	-	-	
	2	市民自治	<ul style="list-style-type: none"> 相手を認め合う 市民活動をしている人から市役所にいこう(一般の人は困ったときだけ) とりあえず声を上げよう 文句ではなく、自分が参加 季節感のある地域行事を企画する どんな吹田に住みたいか考える→人任せにしない 新しく市民になられた方が自治会活動に参加しやすいよう誘う 町内の自治会も高齢化の波がやっけてきている→働いている方も参加できる環境づくり 吹田市を知らない・興味のない人とお話しして吹田市を知らせよう 	<ul style="list-style-type: none"> 市民と行政(自治会)とが理解を深め合う→不安を取り除く 吹田市の職員OBと地域住民との日常の関わりを高め行政と市民の一体感を向上 コミュニティから学ぶ 近所での集会の機会を作る! 祭り(地区の祭事) 団地の自治会を行う(防災訓練等) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の立場を知る(市民の声は大事) 市の職員も毎日見ている風景(街並み)に気を配ってほしい 市報を読みたくなるための多種多様の市民参加 各種各世代のたまり場作り わかりやすい情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 市民こそが窓口! 一般市民が関心をもつ、読んで市民が助かる市報 人にも自然にも優しい吹田へ
大綱2〔防災・防犯〕	3	防災	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークをつくる(自治会への加入) 古い家や農地への対策 避難のシミュレーション 避難口の場所を日頃から確かめる ハザードMAPを確認しておく 	<ul style="list-style-type: none"> 言い出した人がリーダーシップ(防災) 防災訓練→人とのつながりをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 備蓄 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会加入率UP、より強い防災へ 参加者数全国一!吹田の防災訓練
	4	防犯	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査に協力する 見回り、草の根パトロールを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 使用されていない施設を警察等の施設へ再利用 	<ul style="list-style-type: none"> 交番設置 監視カメラ 	<ul style="list-style-type: none"> 監視カメラゼロの町、日本唯一の取組!
大綱3〔福祉・健康〕	5	高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションをとれる場の提供 行事への積極的な参加 若年層との共存の気持ちを持つ! 高齢者生きがいの援助(子どもとかかわる等) 後期高齢は第二の人生のスタートであることの啓発 生涯現役(高齢者の起業) 	<ul style="list-style-type: none"> 一人住まいの情報共有と話しかけ 施設との連携→外に出してもらおう 子供のもちつき大会に高齢者を(高齢者だけのイベントでは人は来ない) 子供、高齢者へのやさしい環境づくり(地域の高齢者等と共に遊べる場) 	<ul style="list-style-type: none"> 屋外へ出る仕組みをつくる! 地域の行事に市が参加する 起業するのに税制手続きを簡略化する/相談できる人を増やす かっこいい高齢者を市報で取り上げる 	<ul style="list-style-type: none"> 出てしゃべるアクティブ高齢者 高齢者の起業率全国1位、休んでいられないまち吹田
	6	障がい者福祉	-	-	-	-

No.	話題	今後10年間に取り組むべきこと			10年後の市報ずいたの見出し
		市民の取組	協働の取組	行政の取組	
7	地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心をもって気づく 市民同士の話し合い・助け合いの機会を増やす 認知症についてはお互い様。少しずつ助け合い、恐怖心を払拭しよう 民生委員の活動への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で飲酒の危険性を説明 悩みの掘り起し(状況・対象者) (アルコール依存者等への)支援団体の紹介 民生委員の活動の拡大 児童虐待を地域で察知する仕組みづくり 独居老人との連絡をより緊密化 	<ul style="list-style-type: none"> 行政も理解を深める(公共の観点から見ると) 地域福祉は市のすべてに関わるので市職員の連携を 認知症を正しく周知する(怖い病気ではない) 吹田市には大学が多いので、すべての事について学生を参加させるよう努力する 民生委員の活動の明確化、公募化 	<ul style="list-style-type: none"> 吹田健康都市10年のあゆみ 吹田市では認知症になっても安心して 市民がこんなに変わった 民生委員公募化！立候補者多数！
		<ul style="list-style-type: none"> まずは一人ひとりでウォーキング クリニックの場所を確認しておく 食事について考える講座などに参加する 高齢者の「今日行く場所がある」という意味での「きょういく」、今日の用事があるという意味での「きょうよう」を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会と一緒に健康体操の実施 地域看護師(身近な相談、予防、つながり、単身世帯) 外国人も含めての医療・介護の従事者と利用者の質の向上 シルバー食堂開業(多世代交流がarellaばなおよし！) 	<ul style="list-style-type: none"> 病児に病後保育の予算をつくる(数が少ない) 地域特性を活かした身近で活用できる情報提供、サポート 健都(医療学術、医療産業、医療観光) 栄養士による栄養管理教室 医療機関への移動手段の確保 健康講座等の広報 	<ul style="list-style-type: none"> 75歳でも60代！ 健康すぎで病院かつこう(※閑古鳥)状態 シルバー食堂が開業しました
9	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ファミリーサポートにもっと理解を持つ 子育て支援に空き店舗等の場を提供する シニアボランティアに協力する 保育園の現状を知っておく パブリックコメントを寄せる 転勤族をサポート(おじいちゃん、おばあちゃんへの助け) 子供が集えるイベントの立案(⇒事故への理解) 事故を恐れず遊ぶさせる 子供の遊び、動きへの大人の理解(⇒みんな迷惑をかけながら育ててきた) <ul style="list-style-type: none"> →子供の声がかかるさい⇒子供の声が春を呼び どんな子育てがしたいかを明確にする 地域づきあいをしてみる 子育て経験者の話を聞く場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所の設置、保育士の増員 条件なく子どもを一時預かりのできる仕組みづくり 多様な保育支援(保育所だけでなく小回りをきかせる) 高齢者に対する育児等の課題に対する接点を作る 地元の大卒との協力 近所の人たちとの情報交換の場づくり(地域の人の手助け) 身近に子育てを共感できるサークルを遊びの見守り、リーダーの育成 子育ては楽しいという雰囲気づくり 自治会の方と子育て世代がかかわるきっかけづくり 無料塾をつくる(人材→民間、場所や初期費用→行政) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士の賃金アップ 場の提供(光熱費、運営費等の資金援助) 収入が低い世帯に対する子育てサポート(割引) 潜在待機児童数も考えてリアルな数値目標を出す 子育てに必要な情報提供 保育ニーズをしっかりと把握し、対策を前例ばかり考えず、前向きな取組チャレンジ おおらかに、前向きに仕組みをつくる 子育て支援の選択肢を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育、保育が無償化！ 待機児童解消連続8年！ 子育て満足度1位の吹田！ 子供の声が春を呼び 子育て楽しい吹田、出生率10年連続上昇中！
		<ul style="list-style-type: none"> 子育て経験者の話を聞く場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の選択肢を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の選択肢を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の選択肢を増やす

関連する施策の大綱

大綱3【福祉・健康】

大綱4【子育て・学び】

No.	話題	今後10年間に取り組むべきこと			10年後の市報すいたの見出し
		市民の取組	協働の取組	行政の取組	
大綱4 （子育て）	10 学校教育	-	-	-	-
	11 生涯学習・青少年育成	-	-	-	-
大綱5 （環境）	12 環境保全	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭での緑化 農業人の市民参加により、農地の緑が継続する エアコンを冷やしすぎないように！ ゴミを拾いやすい空気感づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 吹田市の人口をこれ以上増やさない（住宅開発の中止） 温暖化防止のため家用車を減らせるよう公共交通の充実 市民が親しめ、未来につづく里山の保全・活用 フリーマーケットを定期的に開催 ロハスフェスタ（リユース食器を持ってます！ほかでも使えたら） ゴミの減量、市民と行政の負担を減らす 	<ul style="list-style-type: none"> 名神高速の上や側道に交通新システムを作り、公共交通を充実させ、環境改善 雨水利用の促進 自然体験を小中学校の宿泊学習で行う JR吹田貨物の公害問題（トラック排ガス規制） ごみの回収時間の工夫（クラス対策） 	<ul style="list-style-type: none"> 電力の30%が自然エネルギーになりました 緑が増えました 人にも自然にも優しい吹田へ
	13 都市計画	<ul style="list-style-type: none"> 景観維持活動の推進（子供&現役引退された方）→経験者に参画してもらおうとよい！ 地域の大学と連携して市民活動を活発に→市外の人の意見も聞くとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 学生と市民の交流→スピード感、エネルギーギッシュ 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車専用道路の整備 吹田市内の地域の魅力を活かす 	<ul style="list-style-type: none"> スキ、スキ吹田、私のふるさと
大綱6 （都市形成）	14 公園みどり	<ul style="list-style-type: none"> 花、植物を育てる 公園ボランティア 子供たちが自然と触れ合える機会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 公園等の避難所としての活用を検討する 農地を使ったイベントを実施する 住宅の周りには緑や花がいっぱい（役人さんも自立、市民さんも自立） 	<ul style="list-style-type: none"> 農地面積を増やす 地域を越えた連携 節度ある開発を実施する 税制が「がさんばら（野っばら）」を消した→「がさんばら」の復活 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで作る機能的な農地・公園！ がさんばら（野っばら）の復活 リハビリやトレーニング施設のあたる公園の整備を！～パラリンピック級の公園
		15 道路・公共交通・上下水道	-	-	-

No.	話題	今後10年間に取り組むべきこと			10年後の市報すいたの見出し
		市民の取組	協働の取組	行政の取組	
16	地域経済	<ul style="list-style-type: none"> • まちの良さを自ら知ろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> • ビール工場の見学必須化（吹田の企業を子供たちに見せてあげる） • 吹田市内の100年企業・店舗の紹介や見学会 • 意外と知らない企業文化や歴史を紹介する機会を設けてみる 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業説明会と一緒に吹田に住んだらどんな生活になるのかも紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> • 市報すいた、企業とコラボ！ • みんながまちの案内人
17	文化・スポーツ	-	-	-	-
18	都市魅力・シティプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> • 吹田市の歴史の勉強が必要 • 外国の方との交流 • おもてなしの心 • 一番の魅力は「住んでいる人」なのに、地元で活動していない →市民（専門家）の参画でできる機会をつくりたい • 万博公園を「吹田市」のものにしたい（市民で豊おう！） • 市民や学生が主体となって街の魅力を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの観光資源を活用する方法の探索 • 観光客にもっとときどきもらいたい→隠れた名所を巡るツアーを企画！ 	<ul style="list-style-type: none"> • 大学を手放さない • 一度は東京に行っても戻りたい町づくり（学生を大事にする） • 市内の催しものの情報発信（掲示板、ネット、生涯教育、都市魅力） • 吹田に記者クラブをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> • 大都市圏住みたい街No.1を目指す • ジェンダーフリーの街、吹田 • 魅力ある地域づくり、郷土の形成を願う • 地域コミュニケーションの形成、人のつながりの強化 • 吹田の魅力、あなたです、みんなです • 10年後も住んでいたいまち、吹田
19	行財政運営	-	-	-	-

関連する施策の大綱

大綱7「都市魅力」

大綱8「行財政運営」

図表 9 個人の気づきから得られた意見

①気づいたこと、ポイントなど

- 「ハッピーな子育てできるまち」若い人の参加と高齢者の協働
- すいたの魅力強化となる地域づくり、住みたくなるまちを願う。
- 東西だけではなく、南北にも注目！
- 市民と行政お互いがもっと協働して知り合うことが必要だと思いました！
- 地域によって課題が異なることを気づかされた。
- 市報 10 年後は空き巣、泥棒が発生していなくて、オレオレ詐欺にもかからない治安のよい安全安心な吹田市になった。
- 座学では知り得ないことを学んだ。吹田市の方はマンパワーが強い。
- 自分の暮らしに興味を持とう！楽しいことも、つらいことも。
- 市民の発想力をどんどんすいこんでほしい。
- 自分の気づきを皆のものに。市民活動へ。
- 貴方の笑顔、後藤市長の課題、10 年後のまちづくり
- 子育てはまちづくりの基本
- 市民の声をどこでどうやってもっとひろうのか。
- 19 のテーマがバラバラではなくそれぞれつながりがある。
- 市民同士が日頃から自分たちの考えを出し合う機会が大切！
- 漠然とした問題意識ではなく、公共の視点を持つことが重要だと気づけた。
- 情報を行政が積極的に提供を！
- 有言実行
- 一人で深く考えるのは有意義である 皆で話し合うのはとても楽しい 公園がもつパワー 地域の公園の重要性がよくわかった。
- すいたの魅力 郷里意識向上の施策を望む。
- いろんな世代の人がよりよく交流できればいいな。
- いろんなところで語り合おうよ！私たちの暮らし
- 自立と包摂
- みんなでつくる低炭素化社会、10 年後は吹田市は日本一です
- 自分を活かせる町、すいた
- 近所付き合いに興味ない人への伝達
- ○○は楽しいという雰囲気づくり
- 自治会に入ってみようと思いました。
- まちを良くしたいエネルギーを集めたい。
- 人口増えていて民度が高い吹田、まだまだ伸びると思います。
- 今日から吹田が第 2 のふるさと！！
- 今日春分・千里丘ニュータウン周辺にある吹田の自然について知ることができた。回を重ねるごとに吹田に詳しくなっていくー。

②アイデア、取組、課題など

- 子育て環境がまちに整うと、若い人が来る。子育て環境の充実こそ都市魅力、プロモーションになる。特に若い人には。
- 50年後の総計も要るのでは。建物、橋など寿命を考えた計画が必要だろう。
- 公園に農地を！
- 公園の有効活用
- 「子育て楽しい」と思える雰囲気づくりが難しい？ 高齢者の方は孤独死防止のパトロールで外出よびかけ 一緒に子育て 若い人には市のウェブで子育て情報伝える。
- 「がさんばら」の復活 自然を大切にしている すべての人のつながりの原点となると思う。
- 総合計画策定時だけでなく継続的にこのような場を設け、たくさんの方が吹田の未来や現状を考える機会を提供してほしい。
- ファミリーサポートでお金を取られる。お金のために働いているのに、お金取られると「何のために」と思ってしまう。収入によって、子ども預かり費用の割引や無償があればよい。守口市が幼児教育・保育を無償化していて良い。
- フリーランスだと子どもを預けるのに、条件をつけられる。利用しづらい。誰でも、条件なしで、一時預かりを利用できると◎
- 保育所の問題。
- 人口減少は大問題！皆で子育て支援しよう。

③感想など

- 逆転的発想には驚いた。見方によっても問題は変わってくる。
- 自分では思いもつかない意見を聞いてびっくりしました。なるほど、これこそがワークショップの良さでしょうか！自分の考えと正反対の意見もありましたよ。
- 参加者の数だけの問題提起がありました。
- いろんな意見が出てよかった。しかし、時間が少し足りなかった。
- ワークショップとして多種の市民が多数参加された。進行も適切。長谷川さんありがとうございました。
- 他のグループの人の大胆な見出しを「言えてるなー」と思った。
- 年代の違った方々とお話出来て有意義でした。これからも吹田市に住みたいと思いました。
- 年代により関心事項が違うのが理解できた。
- 世代を越えて子育てについて共感の場が持ててよかったです。
- 吹田市民としての自覚を持って地域のために何かしたい。
- 自分が知らない「地域（吹田）」を知れて良い経験だった。
- 参加されている方々の意識レベルが高くて、正直なところ気後れしました。ですが、いろんな分野でいろんな問題意識を持った意見に触れ、もっと知りたい、もっと話を聞きたい、もっと考えたいと刺激をいただきました。
- 自由な雰囲気と自由な対話・発言になった。
- 今回のワークショップと総合計画の関係について議論されるべきではないのか？
- 今日のワークショップの目的は市民の啓発 or 意見の集約？
- 協働の意味が参加してみて、自覚が出来たように思う。

(「③感想など」つづき)

- 行政まかせではない市民の自主性・活力でより良い吹田を目指します。
- ワークはもっと時間がほしかった。ゲスト講演は素晴らしかった。
- 意見を聞く/話す時間が少なかったかな。多様な話が聞ける場です。
- よくばり企画（市は自分たちで模擬実施してからにしては）
- 多世代がうまくつながる場でした。
- 協働に関する討議はできなかった。
- 1つの企画を実現させることでも非常に難しい。まず、私自身の考えを持ちたい。そして、周りを巻き込む力を持てるようになりたい。
- 「企画財政室の企画はよくばりだ」
- 知らなかったこと、気づかなかったことを楽しく考えられた。
- 学生生活だけでは関わらなかった人たちと出会えて良い経験になりました。吹田市に住んで4年目の新参者ですが、今日だけで少し詳しくなれた気がします。
- みんなが話すところはないので、この集まりが有意義でした。
- テーマが広く、絞り込みが難しかった。もう少しテーマを絞り込んでほしかった。
- 吹田にとって良い年数をとって私も考えてみたいと思う。
- あまりにも時間が少なすぎる。1テーマ2時間くらい（少なくとも1時間）は必要
- 言葉に出して話し合うことで考えがまとまりました ぜひ実現できるものは市に提案いただきたい。
- 他の世代の方から見た吹田を感じる事ができた。
- ワークショップの結果（内容）を市民が見られるような配慮を。
- もっと長時間議論できるような機会を。
- この催し物は少人数の会合と思っていました。
- 市報見出しを考えるのが難しくも、楽しかったです。
- いちばん吹田に住みたいのがー？の私です。
- 吹田の未来を皆さん真剣に考えられてるし、やっぱり吹田が好き。
- 吹田市のことをあまり詳しく知らなかったが、防災や環境、「うめかも」など自分に少しずつかわりのある事柄について、知ることができた。
- 今まで以上に吹田が好きになりました！！また参加したいです！
- 先祖代々この吹田に住んでいる これからもずーっと住み続けるので自慢できることを発信します。
- 若い方（学生）との新しい出会いがありました。
- 草根から市の将来を考える仕組みに敬意 実践化されますように。

総合計画市民ワークショップ
「みんなで考えよう！吹田の未来」
報告書

平成 29 年(2017 年)6 月

吹田市 行政経営部 企画財政室